東石松先人録

小野金三郎（65 歳）

慶応２年（1866 年）３月２８日生　　昭和６年（1931 年）１０月２０日没

延岡領石松村の小野順平氏の長男として生まれる。
幼少から笈（きゅう）を負い、鶴崎の毛利空桑の門下生として知来館に４年間学び、明治２０年３月に卒業。当時、神童と騒がれ、後に空桑の孫娘昭代を嫁に迎えた。

性格はまことに淳朴にして寛大、選ばれて齢２５才で郡会議員となった。
その後、郡参事会員・県農会評議員を経て、同３５年、県議会議員に当選した。
畜産の改良に努力し、同３６年、郡畜産牛馬組合を創立して組合長に選ばれ、大いに手腕を発揮し畜産の発展に寄与した。

同３０年に佐賀県道が開通すると、南由布村としては別府港道の開削拡張の必要が叫ばれるようになった。このため、氏は北由布村と協力して別府由布院間の車道開削期成同盟の会長となり見事に完成させた。
さらに大湯鉄道の建設及び久大線の誘致については、北由布村の衛藤一六氏・小野屋の小野駿一氏・玖珠郡の麻生観八氏らと協力して建設に尽力した。
また、上津々良から奥江を通り山下湖に通ずる道路の完成にも力を尽くした。

自らは旅館山水館を経営して、庭内に金鱗湖に匹敵する池を掘り、倒映湖と称して舟を浮かべ、アヒル・ガチョウなどを飼っていた。
当時は、由布院を別府の奥座敷といって宣伝していた由布院の揺藍期であり、今日の湯布院観光の礎を築いたといつても過言ではない。
なお、由布院小学校にある「棉陰黌」の額は同氏の頼みにより伊藤博文公の書かれたものである。

【町誌 湯布院〈別巻〉より転記】

倒映湖（とうえいこ）は山水館の敷地内にあった池で、現在の大分川と興禅院の間にあったが、昭和３０年ごろの大規模な治水工事の際に埋め立てられ、その後に住宅地となった。現在の東石松第２自治区第６班（通称 御幸団地）である。